



# あなたは近所のお子さんの名前を知っていますか?

「昔は知っていたけど、最近をよく知らないなあ」と、思われた方が多いのではないのでしょうか。(社)三原青年会議所は、我々の住む三原の子どもにとって、この環境が本当に良いことなのか考察する必要があると考えます。



共育連載

地域の子どもは地域の子ども

vol.2

## 三原の子どもの教育環境はどんなの?

子どもの教育環境の代表といえば、家庭と学校が連携するPTA (Parents Teacher Association 家庭・学校連合) があります。昔はこの教育環境で子どもを健全に育成しやすい状況でした。しかし、ここ数年で青少年犯罪の凶悪化、低年齢化・学力の低下等これまで考えられなかったことが起きています。

その原因の一つとして地域の教育力の低下が考えられます。昔は地域の人々が家庭・学校と連携して子どもを育成するのは当然のことでしたが、現在の地域の人々にとって教育に参加する事は当たり前ではなくなってきています。三原も例外ではなく、地域の人々は、教育について「子どものことは学校がすりゃあええんよ」とか、「親がしっかりせんにゃあいけんのものよ」等、ある意味自分達には関係の無いものと考えられているようです。

## PTCAが必要なんだ。でもPTCAって何?

三原に住む子どもを健全に育成する為には、良い教育環境を欠かすことはできません。その為には、家庭と学校が連携しているPTAに地域の人々(コミュニティー)も加えて連携する教育環境PTCA (Parents Teacher Community Association 家庭・学校・地域の連携) を確立することが必要だと考えられます。このような環境で子どもを育てる事を「共育」といいます。簡単に言いますと、家庭・学校・地域の人々が「私達の地域の子どもは、自分の子どもと同じように大切である」という意識を持ち、その考えのもとに子どもに接することなのです。



## PTCAが実現した先には何があるの?

家庭・学校・地域の人々が連携して子どもを育成する環境PTCAが確立した先には、家庭・学校・地域がそれぞれの立場で子どもにとって良いと思う意見を出し合った「地域の学校」を、地域が独自のスタイルで運営することになります。この学校を支えている地域の人々の誰もが、「私達の地域の子どもは、自分の子どもと同じように大切である」という姿勢で、子どもに接することで「地域の共育力が充実した社会」が築かれてゆきます。子どもは地域に育てられることで、地域を愛するようになるでしょう。その子どもは、一度は地域を出ても再び帰って来て、また同じ様に子どもを育成するでしょう。このことが、活力のある地域創りになるのではないのでしょうか。

## みたがきいたが

◆同じことを長く続けると、何事によらず上手になる。上手になった頃にミスが起こる。こんな簡単なことは、間違いようがないという油断が、大きなポカミスにつながる。長引く不景気の影響で厳しさが増す就職戦線を、なんとか乗

り越えた高校卒の新入社員も、100人のうち24人は、せっかく就職した会社をすぐに辞めてしまっている。これは推測に過ぎないが、最近の若い就職者は自分が入社する企業について、よく知らないまま就職してしまう傾向があると思われる。就職してからこんなはずじゃなかったと思い、会社を短期間で辞めてしまうのである。◆企業における採用は、入社後の教育・研修との連動を図ることが肝要で

ある。ましてや新卒採用ともなると、未だ社会に出たことのない学生なわけであるから、いまこれができるといった現状能力にのみ評価の力点を置くことは好ましくなく、それより今後こんなことをさせたい、こんなことに力を発揮してくれるだろうといった潜在的能力の発掘をも心掛けなければならないものと考えます。◆人を使うのに、疑っては仕事成り立たない。相手を信頼し責任を持たせることで、良

い人間関係が生まれ、活力ある職場ができる。しかし、信頼すること、仕事にチェックの仕組みを置くことは別の問題である。信頼とチェックは矛盾するどころか、相互補強の役割を果たす。◆行政の仕事でも同じことだ。人は誰でも過ちがあるものだとされるが、行政の経理に誤りは許されない。市民から預かった税金に計算間違いはあり得ない。